

○吉岡徹* 斎藤祥子** 高野美栄** 家永晶子** 蒲池香津代** 高木くに子**

*大妻女子大 **北海道教育大学函館校 **東京家政学院短大 **東京家政学院短大 **樟蔭東女子短大 **中京短大

目的 日本人口の高齢化を予見し、色彩・意匠学部会は高齢者の色彩感情の諸問題を定量的に調査、報告を行っている。本報では、新たに図柄の嗜好を明らかにし、高齢者に好まれる図柄を生活に役立てることを目的とした。そして色彩と図柄との関連を調べ、問題を提起する。

方法 (対象) フェースシート, (試料) (質問) (場所) は(1)と同じ。

※好きな図柄3つを選ぶ: (解析) 数量化Ⅲ類

年	人数	男	女	65~74	75以上	有職	無	未婚	既婚	1人	夫婦	同居	一戸建	集合
1997	2004	594	1410	1178	826	296	1708	79	1925	381	672	951	1604	400

結果 分析の結果、2軸を抽出した。第1軸は、不定型で非幾何学的自由曲線のパターンか同じパターンで繰り返しの不自由曲線かに関連した軸であった。第2軸は細かな線の連続的パターンか大柄が目立ったパターンかに関連した軸であった。好まれたパターンは、S, P, H, D, J, Oであり、好まれなかったのはA, X, B, Y, Gであった。それぞれのパターンの1軸と2軸のカテゴリーウェイトを図にプロットすると、好まれたパターンは図の中央近くに集まり、好まれなかったパターンは、図の周辺部に散らばった。このことから、パターンの表現要素があまり強く出ていないパターンが好まれ、パターンの表現要素が強いと嫌われることがわかった